

# リスクに備える保険



## (i) はじめに

人は生きていく上でさまざまなリスクに直面する。あらかじめ預貯金をしたり、保険に加入したりすることで、リスクに備えることが重要である。今日は保険の知識を身につけ、自分がどのようにリスク管理していけばよいのか考えていきましょう。これを怠ると、生活破綻を招くこともあります。

## (ii) リスクとは何か

自分の命の危機や、お金が足りず生活できなくなる危機など、人生にはいたる所にリスク(危険)が潜んでいる。

### Think🗨️ 私たちの身の回りにはどんなリスクがあるか？

発生する可能性のあるリスクを書き出してみましょう。

- |                             |                          |                          |
|-----------------------------|--------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> 火事 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/>    | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/>    | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

### Work📝 加害者になった場合の事例を調べてみよう

高額な賠償金が発生する事例として、自転車・バイク・車などで歩行者にケガをさせたり、死亡させるといった交通事故によるものがある。過去にあった加害事故による高額賠償事例を調べてみましょう。

#### ■自転車での加害事故

[事故の内容・被害者の様態]

[賠償の内容]

#### ■自動車での加害事故

[事故の内容・被害者の様態]

[賠償の内容]

これらの賠償をしなければならない時、当然預貯金だけでは限界がある。生活が破綻するリスクを抑えるために加入するのが保険であり、国が運営する<sup>[1]</sup>と、保険会社が販売する<sup>[2]</sup>に分かれる。入れば入るほどリスクへの不安は無くなるとはいえ、その分毎月の保険料がかさんでいく。余計な保険に入りすぎて、毎月の生活が苦しくなるようでは意味がないので、それぞれの特徴を知り、契約するかを吟味しなければならない。

### (iii) 必ず入るべき保険

自分で加入するか考えず、誘導されているいろいろな保険に加入するのは損。まずは絶対に入るべき保険を紹介する。  
自分にとって本当に必要な保険は何だろうか…、と考えながら聞いてください。

#### ■ 保険は何のために入るのか

保険の役割は「確率は低いが現実には起きたら大損失になるものに備える」ためにある。つまり、ちょっとお金がかかる程度のものには無理して保険を掛けなくとも、貯金で対応できればよいということ。確率が高く損失も大きい例としては、紛争地域に行く事や災害の危険が高い場所に住むことなどで、できるだけ自分から避けなければならない。

	確率 低	確率 高
損失 小	 <b>貯金で備える</b>	 <b>貯金で備える</b>
損失 大	 <b>保険で備える!</b>	 <b>死! 近寄っちゃダメ!</b>

右の表にあるように、確率は低いけども万が一あったら人生が終わるようなリスクに対しては、保険が必須!

 <b>保険で備えろ! 低確率・大損失の主要リスク</b>			
	確率	損失額	備考
3	0.1%	数千万～数億円	死亡時の年齢・年収次第
4	0.035%	数千万～数億円	住宅価格・周囲への損害賠償価格次第
<b>自動車事故で人を死なせてしまう確率 *3</b>	0.0039%	数千万～数億円	損害賠償額次第

以上の出来事には、万が一起きてしまったら自力で払えない損失が出るため、保険で対応していく必要がある。

#### 保険の極意 必ず入っておかないといけない保険!

①<sup>[5]</sup> ] ※自分が死んだら生活に困る家族がいる場合

自分が一家の大黒柱の場合、遺された家族の生活が困らないように入っておくとよい。

②<sup>[6]</sup> ] 年間 3000～5000 円程度でも入れる。高い場合は見直す必要あり。

③対人対物の<sup>[7]</sup> ] ※車・自転車を持つ人のみ

自動車保険には車の修理に適用する車両保険、事故の物損やケガに対する対人対物保険の2種類がある。相手に大けがを負わせた場合には数億円規模の賠償金が発生するため、対人対物の保険には必ず入ろう。

この話をすると、じゃあ、がんや入院・手術、老後とかに備える保険はいらないの…?という疑問が出る。これに関しては、それぞれの人生なので「絶対いらない」とは言いきれないが、日本国民であれば全員加入している公的保険である程度の保障はされる。これから教える知識を通して不十分と感じれば、民間の保険会社で販売する「がん保険」や「終身保険」の加入を自分自身で考えてもらえればと思う。

## (iv) 病気・ケガへの備え

私たちは、職種によって異なるが、日本国民は全員が何かしらの<sup>[8]</sup> ]保険に加入できるようになっている。

この制度を「<sup>[9]</sup> 」といい、日本では1961年から始められている。

この保険に入っていることで、美容整形やレーザー手術、  
保険対象外の医薬品など、一部例外はあるものの、  
皆の医療費は基本[ ]割の自己負担で済む。



ここまでは多くの人に知られているが、大事なのはここから。

実は私たちは、例え大きな手術などで高額な治療費がかかっても、あまりにも額が多い場合は健康保険から支給される仕組みがある。この制度を<sup>[10]</sup> ]制度という。所得によって自己負担の限度は変わってくるが、例えば年収500万円の人が、仮に月100万の治療費がかかった場合で計算してみよう。

この年収の場合、自己負担限度額は  $80,100 \text{円} + (\text{総医療費} - 267,000) \times 1\%$  という計算式で算出でき、計算すると87,430円という額が出る。月に100万の治療費がかかっても、90万円以上が後から支給されるということだ。これなら、がん保険などを手厚く契約しなくとも、貯金しておけば何とかなるという考え方もできる。

### 《その他のリスクへの備え》

- 雇用保険 (病気やけがで働けなくなった場合に支給)
- 出産手当 (出産時に支給されるお金)
- <sup>[11]</sup> ] 障害がある場合、その等級に応じて支給される
- <sup>[12]</sup> ] 死亡した場合、収入や子どもの数に応じて遺族に支給
- <sup>[13]</sup> ] 高齢で働けなくなった際に生活に必要なお金を支給
- <sup>[14]</sup> ] 要介護の状態になった場合、介護サービスの自己負担が1割に

## (v) 年金保険

年金保険には、「老齢・遺族・障害」の3種類があるが、多くの人に関わるのが**老齢年金**である。

厚生年金	
国民年金保険	
サラリーマン・公務員	農家・自営など

### POINT

- \* [ ]歳～[ ]歳未満までの全ての国民が国民年金保険に加入する (国民皆年金：1961年～)
- \* 原則[ ]歳から保険料を納めることになる。
- \* 高卒で就職した場合は18歳でも[ ]年金に加入し、保険料の支払いが始まっていくので注意する!
- \* 学生で20歳以上でも保険料が納められない場合は、「**学生納付特例制度**」で猶予してもらうことも可能。

このように、多くの人で少しずつお金を出し合い、万が一のリスクに備え助け合う制度が保険というもの。何度も繰り返すようでしつこいですが、自分にとって必要な保険をしっかりと考え、無駄な契約をしないこと! たかが月2000円の保険でも、50年入り続ければ120万円になる。このお金でどれだけ遊べるのか。1回入るとなかなか辞めないものでもあるので、初めが肝心! よく考えていきましょう。



# リスクに備える保険



## (i) はじめに

人は生きていく上でさまざまなリスクに直面する。あらかじめ預貯金をしたり、保険に加入したりすることで、リスクに備えることが重要である。今日は保険の知識を身につけ、自分がどのようにリスク管理していけばよいのか考えていきましょう。これを怠ると、生活破綻を招くこともあります。

## (ii) リスクとは何か

自分の命の危機や、お金が足りず生活できなくなる危機など、人生にはいたる所にリスク(危険)が潜んでいる。

### Think🗨️ 私たちの身の回りにはどんなリスクがあるか？

発生する可能性のあるリスクを書き出してみましょう。

- |                             |                             |                                |
|-----------------------------|-----------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 火事 | <input type="checkbox"/> 地震 | <input type="checkbox"/> 交通事故  |
| <input type="checkbox"/> 洪水 | <input type="checkbox"/> 失業 | <input type="checkbox"/> 障害をもつ |
| <input type="checkbox"/> 病気 | <input type="checkbox"/> ケガ | <input type="checkbox"/> 盗難    |

### Work📝 加害者になった場合の事例を調べてみよう

高額な賠償金が発生する事例として、自転車・バイク・車などで歩行者にケガをさせたり、死亡させるといった交通事故によるものがある。過去にあった加害事故による高額賠償事例を調べてみましょう。

#### ■自転車での加害事故

[事故の内容・被害者の様態] 高校生が無灯火イヤホンで運転中、警察官と衝突。2か月後に死亡。

[賠償の内容] 9330万円の賠償金

#### ■自動車での加害事故

[事故の内容・被害者の様態] 事故によって30歳の公務員男性が被害。後遺障害が残る。

[賠償の内容] 4億5381万円の賠償金

これらの賠償をしなければならない時、当然預貯金だけでは限界がある。生活が破綻するリスクを抑えるために加入するのが保険であり、国が運営する<sup>[1]</sup> **公的保険** と、保険会社が販売する<sup>[2]</sup> **民間保険** に分かれる。入れば入るほどリスクへの不安は無くなるとはいえ、その分毎月の保険料がかさんでいく。余計な保険に入りすぎて、毎月の生活が苦しくなるようでは意味がないので、それぞれの特徴を知り、契約するかを吟味しなければならない。



### (iii) 必ず入るべき保険

自分で加入するか考えず、誘導されているいろいろな保険に加入するのは損。まずは絶対に入るべき保険を紹介する。  
自分にとって本当に必要な保険は何だろうか…、と考えながら聞いてください。

#### ■ 保険は何のために入るのか

保険の役割は「確率は低いが現実には起きたら大損失になるものに備える」ためにある。つまり、ちょっとお金がかかる程度のものには無理して保険を掛けなくとも、貯金で対応できればよいということ。確率が高く損失も大きい例としては、紛争地域に行く事や災害の危険が高い場所に住むことなどで、できるだけ自分から避けなければならない。

	確率 低	確率 高
損失 小	 貯金で備える	 貯金で備える
損失 大	 保険で備える！	 死 近寄っちゃダメ！

右の表にあるように、確率は低いけども万が一あったら人生が終わるようなリスクに対しては、保険が必須！

	確率	損失額	備考
3 死亡	0.1%	数千万～数億円	死亡時の年齢・年収次第
4 火災	0.035%	数千万～数億円	住宅価格・周囲への損害賠償価格次第
自動車事故で人を死なせてしまう確率 *3	0.0039%	数千万～数億円	損害賠償額次第

以上の出来事には、万が一起きてしまったら自力で払えない損失が出るため、保険で対応していく必要がある。

#### 保険の極意 必ず入っておかないといけない保険！

##### ①<sup>[5]</sup> 死亡保険 ] ※自分が死んだら生活に困る家族がいる場合

自分が一家の大黒柱の場合、遺された家族の生活が困らないように入っておくとよい。

##### ②<sup>[6]</sup> 火災保険 ] 年間 3000～5000 円程度でも入れる。高い場合は見直す必要あり。

##### ③対人対物の<sup>[7]</sup> 自動車保険 ] ※車・自転車を持つ人のみ

自動車保険には車の修理に適用する車両保険、事故の物損やケガに対する対人対物保険の2種類がある。相手に大けがを負わせた場合には数億円規模の賠償金が発生するため、対人対物の保険には必ず入ろう。

この話をすると、じゃあ、がんや入院・手術、老後とかに備える保険はいらないの…？という疑問が出る。これに関しては、それぞれの人生なので「絶対いらない」とは言いきれないが、日本国民であれば全員加入している公的保険である程度の保障はされる。これから教える知識を通して不十分と感じれば、民間の保険会社で販売する「がん保険」や「終身保険」の加入を自分自身で考えてもらえればと思う。

## (iv) 病気・ケガへの備え

私たちは、職種によって異なるが、日本国民は全員が何かしらの<sup>[8]</sup> **健康** 保険に加入できるようになっている。この制度を「<sup>[9]</sup> **国民皆保険制度**」といい、日本では1961年から始められている。この保険に入っていることで、美容整形やレーシック手術、保険対象外の医薬品など、一部例外はあるものの、皆の医療費は基本<sup>[3]</sup> 割の自己負担で済む。



ここまでは多くの人に知られているが、大事なのはここから。

実は私たちは、例え大きな手術などで高額な治療費がかかっても、あまりにも額が多い場合は健康保険から支給される仕組みがある。この制度を<sup>[10]</sup> **高額療養費** 制度という。所得によって自己負担の限度は変わってくるが、例えば年収500万円の人が、仮に月100万の治療費がかかった場合で計算してみよう。

この年収の場合、自己負担限度額は  $80,100 \text{円} + (\text{総医療費} - 267,000) \times 1\%$  という計算式で算出でき、計算すると87,430円という額が出る。月に100万の治療費がかかっても、90万円以上が後から支給されるということだ。これなら、がん保険などを手厚く契約しなくとも、貯金しておけば何とかできるという考え方もできる。

### 《その他のリスクへの備え》

- 雇用保険** (病気やけがで働けなくなった場合に支給)
- 出産手当** (出産時に支給されるお金)
- <sup>[11]</sup> **障害年金** ] 障害がある場合、その等級に応じて支給される
- <sup>[12]</sup> **遺族年金** ] 死亡した場合、収入や子どもの数に応じて遺族に支給
- <sup>[13]</sup> **老齢年金** ] 高齢で働けなくなった際に生活に必要なお金を支給
- <sup>[14]</sup> **介護保険** ] 要介護の状態になった場合、介護サービスの自己負担が1割に

## (v) 年金保険

年金保険には、「老齢・遺族・障害」の3種類があるが、多くの人に関わるのが**老齢年金**である。

厚生年金	
国民年金保険	
サラリーマン・公務員	農家・自営など

### POINT

- \* <sup>[20]</sup> 歳～<sup>[60]</sup> 歳未満までの全ての国民が国民年金保険に加入する (国民皆年金：1961年～)
- \* 原則<sup>[20]</sup> 歳から保険料を納めることになる。
- \* 高卒で就職した場合は18歳でも**厚生** 年金に加入し、保険料の支払いが始まっていくので注意する!
- \* 学生で20歳以上でも保険料が納められない場合は、「**学生納付特例制度**」で猶予してもらうことも可能。

このように、多くの人で少しずつお金を出し合い、万が一のリスクに備え助け合う制度が保険というもの。何度も繰り返すようでしつこいですが、自分にとって必要な保険をしっかりと考え、無駄な契約をしないこと! たかが月2000円の保険でも、50年入り続ければ120万円になる。このお金でどれだけ遊べるのか。1回入るとなかなか辞めないものでもあるので、初めが肝心! よく考えていきましょう。





